一心寺門前浪曲寄席観賞会 第８回報告

令和 ８年 2 月 16 日（月)、天王寺・一心寺門前浪曲寄席鑑賞のため一心寺南会所に 参集しました。親鴨会で浪曲鑑賞会を始めて今年でもう８年目です。

最近は参加者はほぼ固定しており、直接一心寺南会所へ集合としています。参加者は６ 名（次ページの写真を参照ください)。

今回は開場される前に現地へ行ってみたのですが、すでに十数名の行列ができていました。京都嵐山から毎月参加しているという人もいました。真の浪曲好きの人たちです。

今回は人間国宝・京山幸枝若師の出演もあり、ひときわ参加者も多いようです。会場の前方中央に、我が親鴨会メンバー6 名分の席を確保できました。
開始 15 分前には全員集合。みな良い席で、浪曲の名調子を十分に楽しめます。

客の入りを見る限り浪曲ファンは徐々に増えてきたように思います。特に女性の数が増えているようで喜ばしい限りです。若い人がもっと増えればよいのですが。関西では、落語・漫才に比べると浪曲・講談の人気はまだまだ低いようです。

関西の浪曲界で昨年中枢曲師の一風亭初月師が急逝され、混乱状態に陥りました。本日も虹友美師が 3 人の浪曲師の曲師をつとめられ大忙しです。
最近は曲師志願者が出て来ており、やや希望が見えてきたとのことです。

浪曲寄席、午後 1 時開演。本日の演者は 4 人の浪曲師。天中軒景友、京山幸太、春野美恵子、真山一郎、京山幸枝若、各師です。

トップバッターは天中軒景友、三味線ではなく自ら弾くギターを伴奏に語ります。初めて聴きましたが、まだまだ浪曲師の語り、うなりとギターがしっくり合っていません。一角を築くにはまだまだ時間がかかりそうです。今日の演題は「四代小団次白洲見得」江戸時代、歌舞伎役者の苦労話でした。

二番手は若手期待の京山幸太師。声に張りがあり、めきめき腕をあげています。新しい演目にも次々チャレンジし、あちこちで活動されています。

本日の演目は古典から「禁酒百石」。禁酒を誓った男が捨て子の赤ん坊（実は豊臣秀頼）を見つけ一晩預かった不思議な縁から豊臣家の重臣への道をたどるという「太閤記」の一編。京山幸太師のすばらしさを十分楽しみました。

三番手は、春野美恵子師、演題は「春琴抄」。谷崎潤一郎の耽美的な小説をもとにした浪曲。以前歌舞伎で有名な「藤十郎の恋」を語られたのを聞きましたが、同じく情緒いっぱいに素晴らしい浪曲でした。歳のせいか声の張りがやや失われてきていますが、今後もいい浪曲を聞かせてほしいものです。

最後トリは、待ってました！！　人間国宝京山幸枝若師の出番です。

　観客の熱も一段と上がります。
人間国宝認定以降、何度も口演を見ましたが、その存在は一回りも二回りも大きくなったように思えます。関西だけじゃなく、日本全体の浪曲界を牽引し、大きく成長させていただきたいものです。
本日の演目は「河内十人斬り」実際にあった出来事だそうです。
今日も素晴らしい口演でした。
義兄弟で殴り込みを決意する盛り上がったところで
「ちょうど時間となりました」
残念でした。

浪曲終了後、会場玄関にて参加者全員の記念写真撮影、演者のおひとり、京山幸太師が記念写真にご参加下さいました。
有難たいことです。

左より（敬称略）

有賀清隆、
瀬並和弘、
今中英一、
入田泰壽、
京山幸太師、
西野信夫、
西田義雄

　浪曲会からの帰路、恒例の懇親会。
参加者５名で JR 天王寺駅近くの居酒屋「吾作どん」で軽く一杯、
浪曲の感想や趣味・山登りや旅行、IBM 時代の昔ばなしなどを酒の肴に楽しいひと時を過ごしました。

　来年度もまた「一心寺門前浪曲寄席観賞会」を実施したいと思います。
ご参加の程よろしくお願いいたします。

文責：親鴨会関西幹事　西田義雄